



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	国民社会の研究 第14巻
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Description	『鈴木栄太郎著作集 7 (国民社会学原理ノート)』を出版した際のソースとなった原稿である (同書内での言及による)。
Issue Date	1961-12-25
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77622
Type	manuscript
File Information	I017_0114.pdf

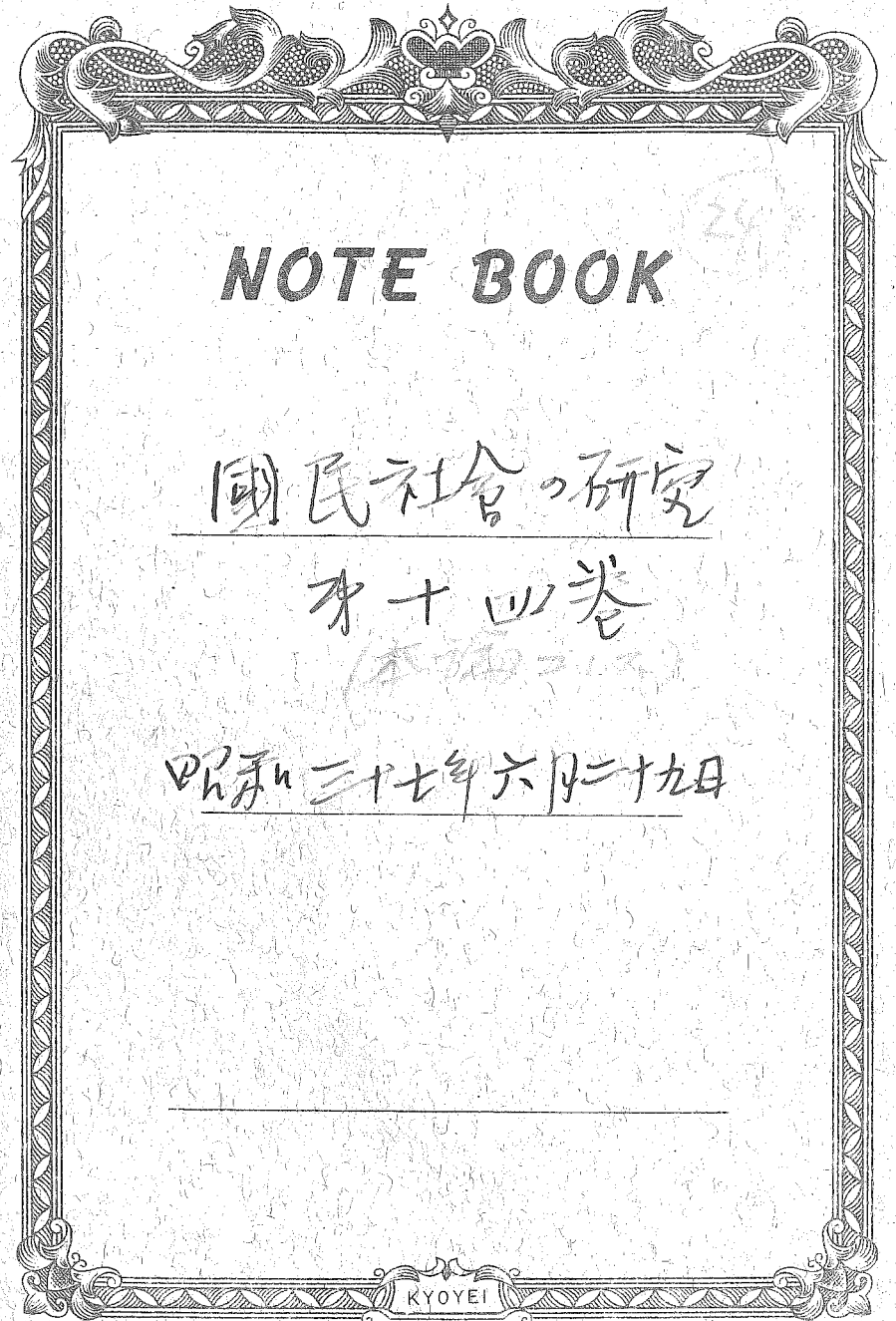


14



HANKYU

MA
3



NOTE BOOK

國民社會の研究

第十四卷

昭和二十七年六月二十九日

KYOYEI

14

統治文化の形成
書経と統治文化

「民衆の研究」について

政治道徳の形成
政治道徳の形成

南有氏の政治思想

ハインズの政治思想

官制の形成

「民衆」の形成

「民衆」の形成

24 222120 19 18141310 81

統治文化の伝承

大衆の都を造成するのには大変な苦勞があつてあつたか、一世にまた、ぬぬに都^へに都を望む理由は、簡単に、ものゝけなかつた事である。然し、それが権力団体の移^りには、各団体の移^りと移^りである。そこで、はたして、官僚は、そのまゝ、京都^へ官僚となつて、ついでに、たゞである。

京都で、王制官僚が、平家^へ官僚に移つたのは、容易な、ぬぬに、伴つてである。

京都^へ武官^へと鎌倉^へ武官^へとの同様の移^りは、どんな移^りか、

変質を伴ったか。

鎌倉・武門官僚と京都・武門官
僚との間の行政の移行は如何。
京都・室町官僚と江戶・幕府の
統治組織、幕府の統治組織等の
間における統治文化の移行の次第。
次に幕府の統治組織は江戸・幕
府の統治組織にどんな移行を
を及ぼしたか。口取は江戸・幕府
官僚は明治新政府に何をいさつ
いたか。

室町・幕府の力衰え、徳川の統一

左案中はつゝの便は即ち改稿の

者が中は空白になつてゐたであつて
か、その以は天下靡のやく乱れ人は
この時代を戦いの時代と云つてゐる。

改稿の力が衰へてゐる決つてゐなくとも

新しくより強い改稿が欲はれ

旧改稿を駆逐したがる場合には

天下に改稿の空白が有るのとはな

つゝそんな外には世が乱れをさす

し起るから。天下を統一し強ひ改

稿が有るという時は昔と改てあつて

無改である世は暗黒にはな

るはなつ。統一政権が空白になれ
は直ぐに世は戦乱暗黒の時代と
なりと云ふ事は次ぐくの政権の
引きつきの時の事暫く見て来れ
ば直ぐに讀みとられぬ。

なり。

口民は世が亂れ平安にならなは
れぬと信じてゐるのであるから口民
は西朝王の世に世を治めその治下に
居たいと云ふのは、いつの世にも
あつたのである。口民政治を
つづけて居る配下の人々を本
質的に都統してゐるものである。

いものつ、助せず、をたすつ、つある。

天下に王たる人は一族の中^に主位ル立ち
一邦の中へ主位、一郡一^に主位
常に天下に主位となり、ので、平民一
人との力のいしさ、は比較にたすめので
ある。天下に王たる人は平民から一^に
王になよるはたつ。

王たる人がたすくにおたす、から王位
の空位はなつ、~~も~~もたえよ、空位
にたすを、口民は甚たおたす、王位
か空位にたす、を、口民は甚たし
く不安に思ふから、王位はたす、

申絶されさうなくつかれて行く。

口家の制敵事業で以来この事情は

す、とつていつまでものびぬけよう。

王位が空位になつたその一すの隙

があつても様々の悪事をなすもの

秋は世はたさう混亂するところ

で人々は何かしくも動いてこ

ろで経験したのさあろう。

統治文化は申絶す、時はながた

う、あゝ。

「書經」と統治文化

書經は古代の王道を述べた古典。東洋における統治文化の源流形成に大きな力となつたものと見られる。支那の昔の帝王の治績、言行の記録である。後世に及ぼした影響は極めて大きい。特にその内の「堯」「舜」「禹」は周の武王が定めた殷の三仁の一人箕子を訪ねて天下を治めよう道をおしめられた。堯の治績が説いたのがこの洪範の「五事」である。書經を多く研究した朱子がつくった天下五字表にするとあるようである。

書經が古代理の治用の根本の古代の統治者にとりて影響をいふか不明だが

日本においで統治者は始めから二んた
敷五に耳をかたむけて居たのでありう
治山治水の道 人の和の道なども
道は天下を平泰にするを教へて
いふ。

古来の
書經を讀めば東洋の王道の傳統
を知りかゝる。

三七、七八

この発表は私が今まで述べてゐる口説きの

研究の中間報告である

この研究は、古今東西の要する所の

つか、既に研究の進捗は著しく進んでゐる

本研究は、研究の進捗は著しく進んでゐる

おいて、研究の進捗は著しく進んでゐる

研究の進捗は著しく進んでゐる

研究の進捗は著しく進んでゐる

研究の進捗は著しく進んでゐる

研究の進捗は著しく進んでゐる

研究の進捗は著しく進んでゐる

口説きの研究は、ついにその研究の
進捗は著しく進んでゐる

研究の進捗は著しく進んでゐる

研究の進捗は著しく進んでゐる

研究の進捗は著しく進んでゐる

研究の進捗は著しく進んでゐる

研究の進捗は著しく進んでゐる

研究の進捗は著しく進んでゐる

研究の進捗は著しく進んでゐる

研究の進捗は著しく進んでゐる

研究の進捗は著しく進んでゐる

研究の進捗は著しく進んでゐる

研究の進捗は著しく進んでゐる

研究の進捗は著しく進んでゐる

かといふものではあるが、それは究極的に不変の結果である。

文化として他人の習得には遅めるべき
然し宇宙環境下地球生活に於ける経済的
な平等は、経済構造の内側にあるもので
経済の意味を現存して来た従来の概念
やその転換は不可欠。口説き掛かるとい
う言葉も既に現存している。至極者に媚む
物同様の記号を用いた権威づけは浸透し
ておかなければならぬ。権威づけは
経済構造と生活構造と完全集団
社会の同一性（必要と生活機能）
ありである。

新作の色紙

一口民衆の法多精進の提唱
二文流の環北線路線の提唱

元々俗世の民衆が重要視する所
は其の完結的なること、この故に絶対
的である。

一九七〇

王者の道

一 互乱の力なく、民に對して行ふ政道

二 王者は武力によつてか親中つりによつてか

絶対權力の座に上つて自分の他人の

満足は満足足りてゐる者、王道は

かくの如き王者が考へる生活面

王道の道

武力により平定した情態にまで達する

は政治の準備段階に止るゆゑ

武力による互乱の必要は強くな

てから政治が始まる。軍政は政治では

ない。政治は永久の存続環境を要する

現狀の所産を以て既成の面を要する

改革の完結

(自然生活字)

(一) 治山治水

(以上書經洪範に載る)

(二) 殖産興業の要は民生の安寧

(六) 交通道路の設けは民生の安寧

(三) 天板のよき生活平定

(四) 治安の道、兵力の維持

(五) 外交及び政治兵力

九月九日

25

カ

63

15
17

1

17

2000

になつて盡つてはた家の内に入つて家
内陽をくさかしまわつてさうわさつておひ
まをわすれてゐた

朝鮮人の巡警になつたか

ら、朝鮮人軍の指揮から乱暴者のつり

りつく島がなつたり木の軍隊がなつた

をいすあげてをろくお知つた時隊世に

強されぬ心ほえて感じた。

保衛をうけよめが口示に時居いんし

る口示が優位で強さであつてを

切に念じた。

口示的に口民を保衛するが口示

の機能の一つである事は明かであつた。

15

それと同様に、内生活に於いて暴力を
正から口民を保護する事も其の
使命即機能の一つである。それは
口民が如何に其の利を享受する
生活の享受の為に其の利を解か
るや其の利の享受の為に交流の道
を拓く事や其の利を享受する為の教育
を解く事は其の利を享受する
事。

口民の存在は口民が如何に其の利を享受
する事も其の利を享受する為の使命
口民の存在は其の利を享受する為の使命

口家への財物を盗んで盗んでい
口家はあつたが口民に強制して
いはなく、口民が作り出すものを
見てよい。

加王

9
b
r

南支那の政治経済史

日本がなす西洋の政治経済史である
と東洋の政治経済史が合点ふかしく
このたのほ残をたふる。日本の政治経
済は今日にあつても中国の古代の政
治経済に劣るをたふる。かである。
中国の古代の政治経済史をよるに
しては今日の日本の政治のたのほの残
は困窮である。

パースの社会統制の理論

特ニマートンの目標即ち目的と抑制即
チ制度の相対的均衡による社会
構造の均衡を説明せんとする
へはパースのソシアリズムの
口実たる社会の進化の要求を
予知するマートの考へも見落して
はならぬ。

社会経済学 50 山田 社会統
制の概念 市 昭

特に「支配の法則」

P.123

官僚の不屈の力

マクス・ウェーバーの支配の社会学の内で
最も感服したところは官僚に對し
ては何故なすべしと云ふに對する
素人の眼に於てあつた。
組織的に教へてある。
官僚制が専門的部門組織になつ
て、相互に秘密主義外部にも
秘密主義。中央官僚の力は一人
の手中に集中する。その一人は首相。
その首相は改良毎に代ふ。
形式的に政治の權に統一する中心
となる。中には官僚團以外にはない。

社会構造と云ふ語について

社会構造とは、マートンの用語
によつて一般に決定されてゐる。
私はこの語を用いたつて、他の用語
を排しようと思つてゐる。

都市の社会生活の支柱をなし

てゐる社会は世帯と職業

と命令は産業的に地域

的ハ多量な地域の命令

見である。この命令は個人も社会

も得ない命令かそれを都市の

社会構造とかマートンの用語

によれば正である。故に私は

それを都市の社会構造と見なす
で、都市社会の基本的構造と
呼ぶことにする。

マートンの社会構造論の考へによつて
進及して、ベイヤースの都市社会
学構造の要素としての個人と
モザイク社会とを考へる。

「わが格」の口実自作の考へ（口説きの研
究者諸君四巻道卷事ハ巻一の
口説き自作の考へも三にて考察する
ところある。そのニでは自家白体とその様
子とありあつた。

國民の立場に
中心として
考へる

口民族自治地方共同团结

あり、土地共同団体化。。

土地を耕田して占
有するは人
の力に
由るもの
なり

如所
白
水の統治に
むかひ
し
非
な
い
者
を
井
の

社
會

口民と口家の別、口民と口民社会の別、
口民社会と民族の別、口民社会とコミュニティー、
口民社会と社会主義

口飛はに身衣の上にあふアッソレジャーマン
のつであも20しに成れは家全にの家の上にあふ

□民は□宗と國聯に於ける人々の一
部の義である。□民は□宗と國聯のない
多くの測り難いもの。

民族は口民の一部である。場合あり、二つ以上の口民を有する場合あり、一つの民族は一つの口民の跟迹であらうと思はれる。

つぎに、
共同作業
として、
土地
を
活用
する

元
合
人
子
18

○後50%は土地共有団体である。

國民革命軍

26